

「専門・認定看護師のキャリア開発支援に向けた取組み
～個々のキャリアニーズを可視化し、組織活用・地域貢献に向けた育成・支援につなげる～」

公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター 佐々木 佳代

【概要】

専門・認定看護師のキャリア開発支援に向け、個別面談を行い、個々のキャリアニーズや困りごと・思い意見を把握するとともに、個々の活動状況、役割期待と活用について可視化を行った。それを基に専門・認定看護師のそれぞれの領域と院内医療チームにおける活用の方向性を検討・共有し支援に繋げた。

新たな認定看護師制度の開始を次年度に控え、情報共有や意向確認と進学支援が課題となっていたため、新たな認定看護師制度の説明を実施し理解を進めるとともに、個別面談で確認した特定行為研修受講に対する個々の意向を基に進学支援を進めた。特定行為研修修了者については実践上の体制整備と実習指導体制整備を課題として取り組みを進めた。地域貢献に向けては、昨年より横浜市医療局と「専門・認定看護師の地域活用・支援事業」を開始しており、院内外に向けた活用推進の周知活動を行うこと、その実績をフィードバックしていく事を目標に取り組みを行った。

総勢 40 名近くの専門・認定看護師の活動は多岐にわたり、個人のキャリアニーズと組織ニーズの可視化は全体を俯瞰することにつながり、その育成・支援・活用に向けて有用と言える。しかし、そのためには、専門・認定看護師個々のキャリアとスペシャリストとしての実践能力を把握すること、信頼関係を構築しながら困りごとや思いも含めた個人ニーズの把握を定期的に行っていくことの必要が示唆された。

【背景】選んだ課題の背景と自分の立場、役割

自組織は、高度先進医療を担う大学病院として、また地域医療支援病院及び地域がん診療連携拠点病院としての役割を担う。医療の質や安全性の向上に向け、高度化・複雑化する医療へ対応するとともに、地域医療連携の強化に向けた人材育成を進める必要がある。特に、専門・認定看護師は看護実践の質の向上とチーム医療推進に向けた要であり、その育成と活用推進は重要課題である。具体的には、専門・認定看護師の地域に於ける専門性の発揮が求められており、昨年末より横浜市と連携して開始した専門認定看護師の地域支援事業については活動評価を行う必要がある。さらに、特定行為を含む新たな認定看護師制度の開始を次年度に控え、情報共有や意向確認と進学支援が必要である。また、既に特定行為を修了した特定認定看護師の活用・支援や、特定行為実習協力施設としての体制整備が必要となっている。

然しながら、教育担当副看護部長である私は、当院の勤務経験 2 年目であり、専門・認定看護師が多様な役割を担う中、個々の育成や支援は担当部署とチームへ任せるところが大きく、全員の活動状況を看護部として共有することができていない状況にある。専門認定看護師全員の状況やニーズを可視化し全体を俯瞰しながら、キャリア開発の方向性を検討し、課題への取り組みと育成・支援に繋げる必要があった。

【実践計画】

I 課題解決に向けた実践計画の目標

- 1 専門認定看護師の個々のキャリアニーズと組織ニーズを可視化しキャリア支援と活用を推進する
 - 1) 専門・認定看護師会で専門認定看護師の活動上の問題の共有と課題解決を行う。活動の問題点として挙げられているコンサルテーションの方法について検討し、「専門・認定看護師の活用ガイド」を作成し、活用していく。次年度開始となる新たな認定看護師制度についての情報共有や、既存の認定・専門看護師ラダーの内容を確認し、活用についての検討を行う。

2) 専門認定看護師との面接から本人の困りごと・課題を含め、キャリアニーズを把握する。加えて、専門・認定看護師の院内外の役割（講師・実習指導・執筆・研究等）を踏まえ、組織ニーズとしての役割期待を明確にする。一表化し、俯瞰しながら、個と全体からキャリア支援と活用について検討し方向性を見出す。

2 新たな認定看護師制度の開始を次年度に控え、特定行為研修進学支援と実践上の体制整備を行う

1) 新たな認定制度の周知とⅠの面接による意向確認を行い、自組織（看護キャリア支援センター）の特定行為研修への次年度以降の進学対象者の検討を行う。進学決定者への支援を行う。

2) 特定行為ワーキングで実践上の課題を明確にし、取り組む。実施されていない特定行為スキルの維持などフォローアップの可否等を検討する。また、特定行為管理運営委員会での手順書の承認等、特定行為実施施設としての環境を整備する。

3) 特定行為実習施設として、関連領域の指導医、指導者の協力を得ながら実習環境を整備する。

3 地域貢献に向け、専門・認定看護師の質の高い専門的な能力発揮を支援する。

1) 専門・認定看護師の地域支援事業の評価実績をまとめ、その成果を院内外で共有する。

2) 横浜市医療局と連携し、専門・認定看護師と地域との交流会を企画し、地域支援事業を推進する。

Ⅱ 実践計画の方法・スケジュール

1 専門認定看護師の個々のキャリアニーズと組織ニーズの可視化とキャリア支援・活用推進に向けた取り組み

1) 専門・認定看護師会で、活動上の問題の共有・検討を行う。

① 専門・認定看護師活用ガイドを CNS、CN と共に年度末までに作成しコンサルテーションの方法を明確にする。

② 当院の認定・専門看護師のラダー活用の方向性を検討する。

③ 課題の共有・検討、次年度に向けて専門・認定看護師会の活動の方向性を検討する。

2) 専門・認定看護師ひとりひとりの課題や困りごと、今後の意向を聴き、キャリア支援に繋げる。

① 個々と面接を行い、本人の思い・課題、特定行為研修の意向を聴く（8月中）。

② 専門・認定看護師の院内外の役割（講師・実習指導・執筆・研究等）を把握し、キャリアを踏まえ整理・分担する（8～9月）。

③ 組織ニーズとしての役割期待を明確にする（8～9月管理会議）。

④ ①②③を可視化し、俯瞰しながら、個と全体からキャリア支援について方向性を見出す（9月）

3) キャリアに応じ、進学・実習指導・講師等担当時の支援を教育担当・部署師長と分担し行う（随時）。

4) 育成計画と予算の計上を行い、実行可能とする（10月）。

2 新たな認定看護師制度の開始を次年度に控え、進学支援と実践上の課題検討を行う。

1) 専門・認定看護師会で新たな認定制度の情報周知。面接時に理解を把握しながら、意向確認をする。

2) 看護キャリア開発支援センターにおける特定行為研修施設申請検討委員会メンバーとして、自組織の特定行為研修内容の検討と情報把握を行いながら、次年度以降の進学者の検討を行う（9月12月）。

3) 特定行為実施施設としての環境を整備し、推進する。

① 特定行為 WG を運営し課題検討を行う（6, 9, 10, 1, 2月）。

・ 各回の WG で実践上の課題を明確にし、取り組む。

・ 特定認定看護師が手順書案を作成し WG で検討する。

・ 各回の WG で実施されていない特定行為スキルの維持等、研修修了者のフォローアップについて検討する。

② 管理運営委員会（11月、2月）で手順書の承認、実践状況の共有、実践上の課題検討を行う。

③院内における特定行為実施についての広報を行い、周知する（ポスター掲示）。

3 地域貢献に向け、専門・認定看護師の質の高い専門的な能力発揮を支援する。

1) 専門・認定看護師の地域支援事業窓口としての実績をまとめ、専門・認定看護師会でフィードバック（11月）

2) 横浜市医療局と今年度の広報（院内外）活動を計画・実施（9～12月）

3) CNS、CNの活動PR紙面の作成（11月迄）、報告会の企画依頼（教育担当HN）

【結果】実践計画の進捗状況及びその成果

I 面接からは自己の役割遂行に向けての活動内容・目標も聞かれたが、活動上の困りごとや専門認定看護師会についての要望、活動に対するフィードバックを求める声もあった。面接の状況と共に、現在の担当役割と今後のキャリア支援の方向性を一表にまとめ、看護部管理会議で共有・検討を実施。院内外講師の重複や部署からも勉強会講師としての依頼がある等、特定の者に依頼が集中し、活動時間の捻出に苦慮している現状があり、調整者の必要が明らかとなった。専門認定看護師会においてはコンサルテーションの方法が明確でないという意見があり、まずは相談内容の明示と連絡先等の周知に向け、活用ガイドを作成中。専門認定看護師会への意見は一部11月の会にて反映。次年度の活動については課題検討の場を望む声が多く聞かれ、担当者で今後検討予定である。

II 特定行為研修への意向確認から次年度の進学者を決定。2月に他施設より初めて実習受け入れを行い、事例の把握と医師との調整等、実習指導を担う特定認定看護師の役割が明確となった。また、特定行為実施に向け、新たに8行為の手順書、行為別の説明と同意書の承認を得た。特定行為実施についてポスターを作成し広報した。

III 地域支援事業の状況を専門認定看護師会でフィードバックを実施。月1回程度のペースで近隣施設より依頼があり、内容・日程調整を実施している。「災害時の対応」をテーマに学習会を開催し、医療局、地域、専門・認定看護師が参加、双方の顔合わせの機会となった。地域支援事業については個々へのフィードバックを望む声があった。

【評価及び今後の課題】目標に照らした評価及び今後の課題

I 専門・認定看護師の活用とキャリア開発の方向性については例年検討を実施していたことである。しかし今回の面接から明らかとなった個々のニーズや困りごとを加え、可視化し、看護部管理会議で共有したことは具体的な活動の支援や配置の検討に繋がった。今年度は特定行為研修の意向を切り口に個別面接を実施したが、今後も個々のニーズや目標と活動状況を把握し、役割期待や評価等のフィードバックを継続して行う必要がある。

専門・認定看護師自身が、そのキャリア開発に向け、自己課題を明らかにし、組織の支援を受けながら主体的に取り組めるよう、専門・認定看護師のラダーの見直しと活用が今後の課題である。

II 他施設からの特定行為研修実習受け入れの状況を踏まえ、次年度の新たな認定看護師教育課程の進学者支援及び実習指導体制の検討・整備が必要である。特定行為実施施設としての環境整備と推進は継続的な課題である。

III 地域支援活動は新規施設からの依頼があり、僅かではあるが活用の拡大が見られる。今後も活動と広報を継続していく。地域と専門・認定看護師、双方からのアンケートを実施したため、活動の評価と課題の明確化を進める。